



奈良市埋蔵文化財調査センター

〒630-8135

奈良市大安寺西二丁目 281 番地

TEL : 0742-33-1821 FAX : 0742-33-1822

E-mail : maizoubunka@city.nara.lg.jp

- ❑ 国道 24 号線 柏木町交差点を東へ 300m
- ❑ 近鉄奈良線・新大宮駅、JR 奈良駅から奈良交通バス「恋の窪町」行き乗車「大安寺西二丁目」停留所下車すぐ
- ❑ 開館時間：9 時～ 17 時（土日祝休館）





奈良市の 埋蔵文化財



奈良市埋蔵文化財調査センター
ARCHAEOLOGICAL RESEARCH CENTER, NARA CITY

埋蔵文化財でみる奈良市の年表

主な遺跡・遺構（できごと）

主な遺物

旧石器時代 （後期）	B. C. 40000		ナイフ形石器・翼状剥片
	B. C. 12000	柚ノ川イモタ遺跡 水間遺跡	深鉢 石鏃・石匙など
縄文時代			
弥生時代	B.C.1000 ～300	ゼニヤクボ遺跡	弥生土器
		柏木遺跡	石鏃・石包丁など
古墳時代	250年頃	佐紀古墳群	三角縁神獸鏡（弥勒寺蔵）
		菅原東遺跡 ベンシヨ塚古墳 菅原東遺跡埴輪窯跡群	石製品・玉類ほか 鉄製甲冑・鞍金具 円筒埴輪
飛鳥時代		赤田横穴墓群	陶棺
奈良時代	710	平城京跡	和同開珎
	752	（東大寺大仏開眼）	唐三彩・イスラム陶器
平安時代	794	（平安京遷都） 土坑墓〔西大寺旧境内〕	腰刀と轡
	1181	（南都焼き討ち）	輸入陶磁器
鎌倉時代			瓦器・土師器皿
室町時代		埋甕遺構〔奈良町遺跡〕	備前大甕
（戦国時代）	1567	（東大寺大仏殿再び炎上）	蛭薬金
江戸時代	1613	（奈良奉行所を設置）	柳町刀装具鋳造遺物
		（国産磁器の流通）	国産陶磁器
		（棧瓦葺きの普及）	両棧瓦

旧石器～縄文時代 (42,000年前～3,000(～2,300)年前)

狩猟と採集で食料を確保し生活していた時代です。旧石器は市内各所で出土しますが、明らかな生活の痕跡はほとんど見つかっていません。縄文時代には、土器の製作・使用がはじまり、煮炊きや貯蔵がなされるようになります。奈良市の東部山間地域では縄文遺跡が多く確認されており、奈良市街地（平城京下層）でも、いくつか遺跡が見つっています。



市内各地出土の旧石器



縄文時代早期深鉢
(袖ノ川イモタ遺跡)



縄文時代中期深鉢
(袖ノ川イモタ遺跡)

弥生時代 (3,000 (2,300) 年前～1,750 年前)

※弥生時代のはじまる年代は今も議論されています

大陸から水田農耕が伝わり、稲作文化を基盤とする社会が生まれました。中期には金属器も登場し、銅鐸などの祭器もつくられました。墳丘のある周溝墓が現れ、古墳へとつながっていきます。



市内各地出土の弥生時代石器



弥生時代中期の土器（柏木遺跡）



弥生時代後期の葉脈・籾殻圧痕土器
(東九条町)



方形周溝墓（柏木遺跡）

古墳～飛鳥時代 (1,750 年前～1,300 年前)

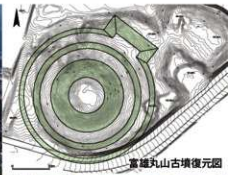
各地で前方後円墳が造られるようになり、古墳時代が始まります。大和・河内を中心に巨大な古墳が造られ王権が出現しました。佐紀古墳群は、巨大古墳が集まる大型古墳群の一つです。奈良盆地と大阪平野を結ぶ要所には、日本最大の円墳である富雄丸山古墳が造られ、王権による国家の支配が行われていたことが窺えます。とくに、三角縁神獣鏡は、王権と地方の支配関係を語る上で重要な遺物とされています。



三角縁神獣鏡 (弥勒寺蔵)



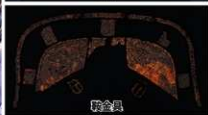
佐紀古墳群 (東群)



富雄丸山古墳復元図

ベンシヨ塚古墳

帯解地域に所在するベンシヨ塚古墳は、5世紀前半に造られた全長約70mの前方後円墳です。発掘調査で3つの埋葬施設が見つかり、甲冑や馬具などが出土しました。これらの出土品は市指定文化財です。



大安寺杉山古墳

国史跡大安寺旧境内に所在する杉山古墳は、5世紀中頃に造られた全長154mの前方後円墳です。古墳をめぐる周濠から多彩な埴輪が出土しました。豪族居館を模したと考えられる家形埴輪は、市指定文化財です。



菅原東遺跡

菅原東遺跡は、4世紀後半の宝来山古墳（垂仁陵）築造に伴い営まれた集落遺跡です。首長居館を中心に、土器・石製品・埴輪などが出土しています。また、6世紀の集落と埴輪窯も見つかっており、ここで作られた埴輪は大和北部一帯の古墳に運ばれていました。付近の丘陵には陶棺を埋葬する横穴墓が多くあり、菅原東遺跡で埴輪を作った土師氏がそこに眠っていると考えられています。



平城京の暮らし

平城京には、奈良時代の貴族たちが暮らしていました。平城京跡の調査では、日常生活に必要な土師器や須恵器などの食器のほか、官人が使用した帯金具や硯などさまざまなもの出土します。また、京内の市場である東・西市では、多くの商品が全国から集められ、貨幣経済の社会が成立します。



土師器・須恵器の食器



唐三彩



奈良三彩



陶硯



帯金具



銭貨



おもり（市指定文化財）とものさし



土馬

平城京の寺院

平城京にはいくつかの寺院がありました。東大寺や薬師寺などは今日でも有名な寺院ですが、奈良時代に最も格式が高かった寺院は大安寺です。現在の大安寺には当時の建物はひとつも残っていませんが、地下には筆頭官寺として栄えた当時の姿が残されています。大安寺の発掘調査では、多くの瓦類のほか唐三彩や風鐸なども出土しています。

また、西大寺旧境内からはイスラム陶器が出土しています。シルクロードで奈良の都と西洋世界が繋がっていたことを示す貴重な資料です。



風鐸 (大安寺)



大安寺西塔跡



イスラム陶器 (西大寺)



軒瓦 (大安寺)



鬼瓦 (大安寺)



垂木先瓦 (大安寺)

平安～戦国時代 (794～1603年)

都が平安京へ遷っても、東大寺などの主要寺院はそのまま残されました。やがて興福寺が強大な勢力をもつようになり、実質的に大和を支配していきます。これらの寺社の周辺に門前郷が発達し、南都として栄えました。



腰刀と轡 (法蓮町)



土坑墓 (西大寺旧境内)



瓦器 (市内各所)



輸入陶磁器 (西大寺旧境内)



蔵骨器として使われた土師器羽釜
(古市城跡)



蛭藻金 (北室町)



備前焼大甕 (椿井町)

江戸時代 (1603 ~ 1868 年)

奈良は幕府が直接支配する直轄領となり、奈良奉行所が置かれました。門前郷は奈良町として発展し、現在につながる町割りが造られました。17世紀には棧瓦が発明され、町屋に瓦ぶき屋根が普及していきました。奈良町は墨作りや刀作りなど様々な手工業を産業基盤とし、都市として発展しました。



肥前磁器大皿 (瓦堂町)



両棧瓦 (今小路町)



国産陶磁器 (市内各所)



刀装具の鑄型 (柳町)



奈良町遺跡 (今小路町)

埋蔵文化財調査センターのしごと

発掘調査

遺跡の発掘調査は、昔の柱穴や井戸など遺構が見つかる深さまで表土を除去することから始まります。そして、丁寧に土の違いを観察しながら遺構を見つけ、その中を掘っていきます。遺構の掘削が一区切りついたところで、写真撮影や実測図化を行い、遺跡の記録を作成します。



掘削風景



実測図の作成



市民による発掘体験

出土品の整理

発掘調査で出土した遺物は、埋蔵文化財調査センターで洗浄し、出土場所の記録を遺物に記した後、それを分類し復元します。復元できた遺物は、写真撮影や図化を行って記録します。こうして作成した発掘調査の記録を下に、その成果を市民に広く公開するなど、埋蔵文化財の活用事業を行っています。



洗浄



検査



復元



記録

奈良市埋蔵文化財調査センターの概要

奈良市には、古代日本の都であった平城京をはじめ、我国の歴史と文化を物語る貴重な埋蔵文化財が多く残されています。

これらの埋蔵文化財を市民共有の文化的財産として適切に保護し、後世に引き継ぐことは、現代に生きる私たちの責務であるとの考えから、本市における埋蔵文化財の発掘調査、出土品の整理・保存・研究を行い、活用を図る拠点施設として、昭和58年9月1日に奈良市埋蔵文化財調査センターを設置しました。



敷地全体図



3階



1階



2階

本館配置図

